

# 自彊前進

題字 西村直子

NO. 13 令和5年6月8日(木)

新潟大学附属新潟中学校 学校だより

文責 教頭

※ 自彊前進…自ら努め励み、前に進むこと  
(校歌3番の文言から)

## 研究授業続々と

私たち附属学校の使命の一つ「研究校の役割」として、研究授業の公開があります。6月6日(火)には、下越地区初任者研修が当校で行われ、今年度下越地区中学校の初任者が来校しました。全学級の授業を参観し、学んだことを協議会で共有していました。翌日は3年1組の理科の授業公開が行われ、県内から理科の先生方が来校し、授業を参観しました。

4月当初に、研究主任の田中健太先生が、当校の研究について語り、「エージェンシー」や「ウェルビーイング」というキーワードについて話しました。最近、メディアでも「ウェルビーイング」という言葉をよく聞くと思います。well-being と綴り、文字通り「よい状態であること」を意味し、幸せな状態を指します。当校の教育目標『生き方を求めて学ぶ生徒』は、自分自身の幸せはもちろんのこと、自分の周りの人々も幸せにする人であってほしいという願いも込められています。

附属中学校は年間を通して、多くの先生方が来校し、授業を参観します。多くの教育実習生も来ます。「よりよい授業を創り上げたい」「素敵な先生になりたい」と願い、みなさんの授業を参観します。そして、勇気をもらい、また学校や大学に戻り、それぞれの目標に向かって頑張るのです。

つまり、決して大げさではなく、みなさんは、授業を通して多くの人たちに夢や希望を与えており、多くの人のウェルビーイングを創出しているのです。もっともっと多くの学生、先生方を幸せにできるよう、これからも生徒と教師と一緒に素敵な授業を創り上げていきましょう。well-being から“better-being”へ!

### 令和4年度学校だより第26号より抜粋

#### 教育研究実践校として

当校は、大学及び附属小学校と一体となり、教育の理論及び実際に関する研究を行い、中学校教育に寄与する責務を課されている。そのときそのときの、学校教育上の課題や、社会的な要請をとらえ、教育の進むべき方向を明らかにすべく、目の前の生徒の実態に即して全体研究の主題を設定し、日々の実践を積み重ねている。厳しい中でも、生徒と教師とで共により善い授業を目指すことによって人間関係が築かれる附属中学校の伝統は今も変わらない。

『ふぞく120年—新潟大学教育学部附属新潟小・中学校』(平成6年)



大学指導者、下越指導者、司会者、  
本校教官の厳しい目が光る



笑顔いっぱい、情報交換  
活動に取り組む生徒たち  
(英語があふれる授業)

